

アサリの生育調査をしました！

近年、南島原市の沿岸ではアサリの生息が確認出来ない状況です。ただ、アサリの小さい貝殻や大きい貝殻は確認されています。このため、環境の変化で死んだり、エイやチヌなどに食べられたと考えられています。

そこで、南島原市では砂利バッグを設置し、海中に浮遊している稚貝が定着しやすい場所を作り、その中で大きく育つ実証実験を行っています。

今回は9月19日、20日の2日間で設置した4地点の生育状況や環境を調査しました。調査の結果、南有馬と西有家では30mm程度の成貝が多く確認できました。有家と布津では、成貝が少なく土壌が黒っぽい状態でした。

調査結果を参考に、アサリが育ちやすい環境を探して成貝を増やせるようにこれからも調査を続けていきます。

南有馬



(砂利バック設置の様子)



(砂利バック内に生息していたアサリ)



(死骸)



(最大殻長 30.42mm)

有家



(成貝 4 個)



(土壤が黒っぽい様子)

西有家



(成貝 72 個)



(死骸 20 個)

布津



(成貝 18 個)



(死骸 2 個)